

みんがアサカセカワ

第35回

参加無料！飲み物付き！
長靴、手袋等はご自分で用意します。

オオシマザクラ
高瀬川の西岸に立つ一本の木は、オオシマザクラ（大島桜）。日本の固有種で、ソメイヨシノは大島桜を親とする園芸品種。葉よりも花が先に咲くソメイヨシノとちがって、大島桜は葉が出るのと花が咲くのが同時。白と緑の綾模様はソメイヨシノより素朴で上品です。崇仁地域の象徴ともいえます。今年の春もどうぞ崇仁テラスでお花見を。

2021年4月3日(土) 13:30～
崇仁地区を流れる高瀬川の川そうじをします。

集合場所：崇仁テラス 塩小路高瀬川下ル
主催：崇仁高瀬川保勝会
問合せ：柳原銀行記念資料館 TEL 075-371-0295

さきわいによろ

「たれでも参加できるよ！」

マスク着用など、新型コロナウイルス対策を忘れなく！

昨年4月4日の崇仁テラス（奥山愛菜『Neo 高瀬舟～物モノ語り交換市』）

崇仁テラス再設置

3/27(土)～28(日)
10:00～16:00(予定)
テラスは地域の交流会やイベント、憩いの場にご利用下さい。

設置のとき少し音が出ますが、お許し下さい。

昨年春の崇仁テラス



Let's clean our Takasegawa! vol.35

崇仁高瀬川保勝会

崇仁高瀬川保勝会について

2017年4月設立。高瀬川を生命あふれる美しい川にしよう、京都芸大が移転してくる崇仁地区を自然と歴史とアートが交わる地にしようとの願いをこめて、毎月第1土曜日に川掃除と交流会を行っています。また高瀬川の上に「崇仁テラス」を季節に応じて設置し、地域の人々の交流スペースをつくるほか、子供たちの環境学習やさまざまな芸術活動を行っています。

◎問合せ 柳原銀行記念資料館
TEL 075・371・0295



崇仁小学校の木

崇仁小学校の校舎はなくなってしまうしましたが、中庭にあった伊東茂光校長ゆかりの公孫樹は残され、未来に託されます。

高瀬川沿いに生えていた雑木は、プール解体に伴って伐採される前に救い出し、保勝会の新しい資材置き場の柱に生かしました。JR線南側の崇仁第二浴場敷地奥にあり、傍らを高瀬川が流れています。



建設中 (2020年5月)



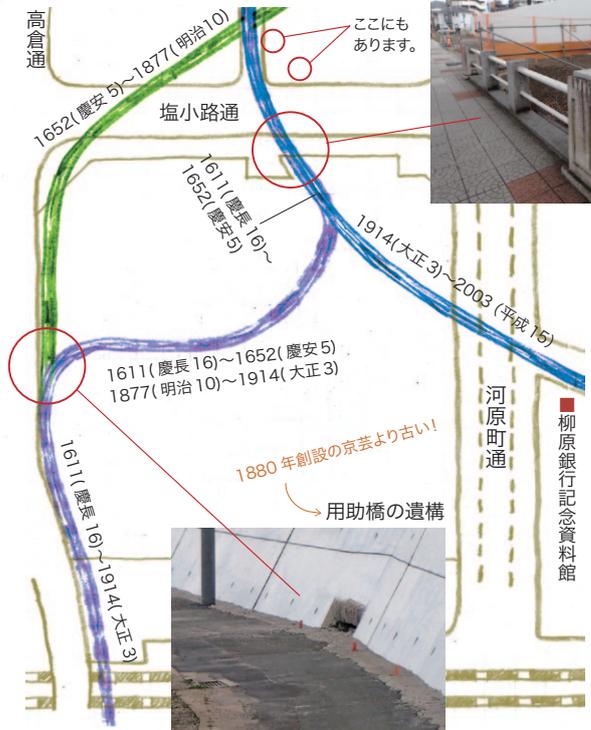
現状



水の生きものでアートする〜高瀬川の生きもの調査 2018/8/4



旧塩小路橋欄干



高瀬川の歴史を守る

崇仁市営団地跡地には、かつて高瀬川が流れていました。流路はいろいろ変遷しましたが、高瀬川は崇仁の歴史と切っても切れない関係にあります。

現在、塩小路通沿いの旧塩小路橋の欄干と、高倉通の法面に用助橋の遺構が残っています。



1880年創設の京芸より古い！
用助橋の遺構

旧塩小路橋は、高瀬川が河原町通の東に流路を変えられるまで多くの人が行き来しました。用助橋は、1879(明治12)年の鉄道の開通時に廃され、その石材が記念として坂の石積にはめ込まれました。共に高瀬川と地域の歴史を伝える拠り所として、芸大移転後もこの地に残されることが望まれます。

高瀬川の自然を育てる



塩小路通下流の高瀬川で、こどもたちと一緒に「水の生きもの調査」をした結果、トンボの幼虫、ヨシノボリ、ヌマエビなど30種類以上の生きものが高瀬川にすんでいることが分かりました。これらを捕食するセキレイ、ジョウビタキ、カモ、サギなどの野鳥もやってきます。コンクリートの河床に泥がたまって、洲になって、クサヨシ、セリ、キシヨウブ、ヒメソルソバなどの水生植物が生え、生きものに住みかとなったのです。

考えています。芸術と自然の創発(意外な組み合わせが生む飛躍)も興味深いテーマです。近年整備された護岸には実生のエノキが生えています。鳥が運んできた種が育つたのでしよう。エノキやケヤキなどのニレ科の樹は鴨川の原風景である河畔林の植生で、下鴨神社の森が有名です。この街もニレ科の森になればいいのになあと夢が膨らみます。このように、人間が持ち込まなくても、川の流れや風や生きものの活動が街の中に生命をもたらします。私たちはそれを適正に手入れして育てたいのです。

京都駅からほんの数メートルのところこんなにも豊かな自然があるなんて、この街は素敵だと思えます。芸大生の奥山さんは洲を掘って、小さな流れをつくりました。これが環境の多様性となって新たな生態系を生み出すかを観察したいと

そうすればその土地にあった「風土」が現れます。かつての京都がそうであったように、風土に根付いた生活様式や芸術も復興することでしょう。